

淡路新地域ビジョン（素案）

令和4(2022)年 月

淡路新地域ビジョン検討委員会

兵庫県淡路県民局

目 次（仮）

第 1 章	新地域ビジョン策定の趣旨	1
第 2 章	社会潮流	2
第 3 章	淡路地域の現状と課題	6
第 4 章	淡路島の魅力と可能性	15
第 5 章	淡路島が目指すビジョン	18
第 6 章	ビジョンの目標	19
第 7 章	ビジョン実現に向けた役割	24
(物語)	淡路島に移住したある家族の 1 日	25
(参考)	新地域ビジョン検討の経緯	

第1章 新地域ビジョンの策定の趣旨

(1) 新地域ビジョン策定の経緯

淡路県民局では、平成13年2月に、これからの淡路地域の目指すべき姿や行動目標を示した「淡路地域ビジョン」を策定しました。この間、淡路地域を取り巻く様々な環境の変化に対応するべく改訂を行いながら、住民の参画と協働のもと、「環境立島あわじ」を理念に掲げ、ビジョンの実現に向けて様々な取組を実施してきました。

淡路地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過する中で、深刻な少子高齢・人口減少社会の進展、技術革新の急速な進歩など、私たちを取り巻く環境は日々変化し続けています。

また、世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、私たちの価値観や働き方、生活スタイルを大きく変化させました。

このような変化の時代において、淡路地域の将来のあるべき姿を地域住民とともに考え直し、理想の淡路島を実現するために新たな将来ビジョンを策定します。

(2) 新地域ビジョンの概要

①新地域ビジョンの役割

新地域ビジョンは、地域のなりたい姿（理想の将来像）を描き、住民、事業者、地域団体、行政など多様な主体の参画と協働によって、目指すべき理想の姿を実現するために、進む方向性を示す道しるべとしての役割を担っています。

②展望年次

今の子供たちが活躍する一世代後の2050年頃とします。

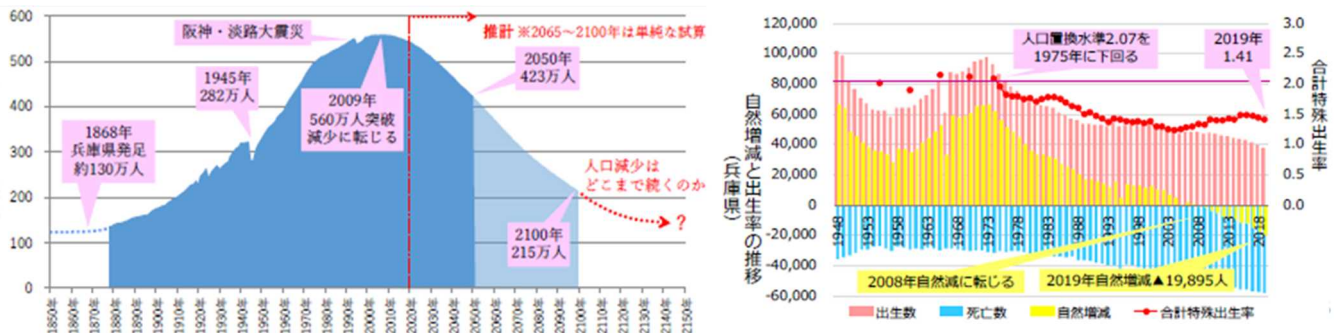
第2章 社会潮流

1 人口減少・超高齢化

(1) 総人口の減少

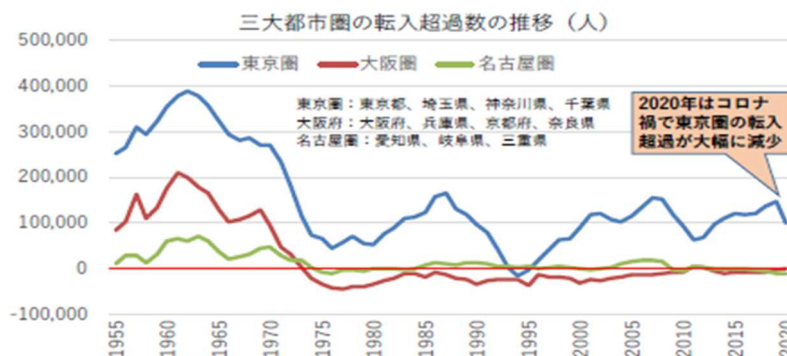
日本は本格的な人口減少時代に突入しました。2050年の兵庫県人口は2015年と比べて130万人減少し423万人になると推計されています。

兵庫県の合計特殊出生率は1.4前後で推移しており、今後も長期にわたって人口が減り続ける可能性が高くなっています。



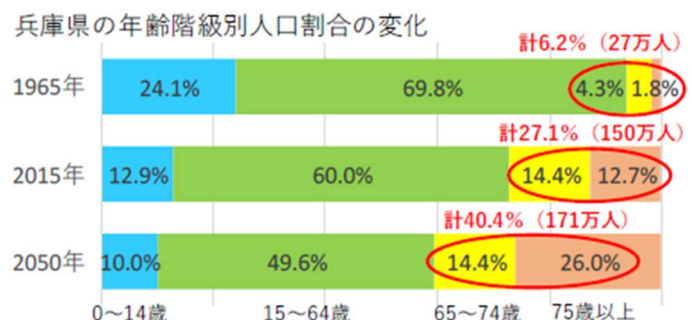
(2) 人口の偏在化

日本の総人口が減少する中で、都市部への人口集中と地方の過疎化が進んできました。一方で、コロナ禍を契機として東京一極集中から地方回帰への変化の兆しが見られるようになってきています。



(3) 超高齢化

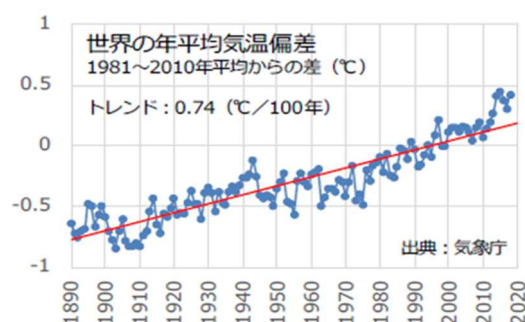
少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになります。健康志向の高まりや医療技術の進展によりさらに寿命が延び、人生100年時代が到来すると予測されています。



2 自然の脅威

(1) 気候変動

地球規模で温暖化が進行しています。地球温暖化に伴う気候変動は、自然災害のリスクの増大や自然生態系の変化、人々の生活リスクの増加など、人類生存への最大のリスクとなる可能性があります。



(2) 災害の危機

被害が激甚化している台風や集中豪雨、新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの感染症、さらには、今後30年以内に高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震など、今後も私たちの暮らしは常に自然災害の脅威と隣り合わせにあります。

近年の災害	1995年	阪神・淡路大震災	2014年	8月豪雨
	2004年	台風第23号	2016年	熊本地震
	2009年	新型インフルエンザ	2018年	7月豪雨
	2009年	台風第9号	2018年	台風第21号
	2011年	東日本大震災	2020年	新型コロナウイルス

3 テクノロジーの進化

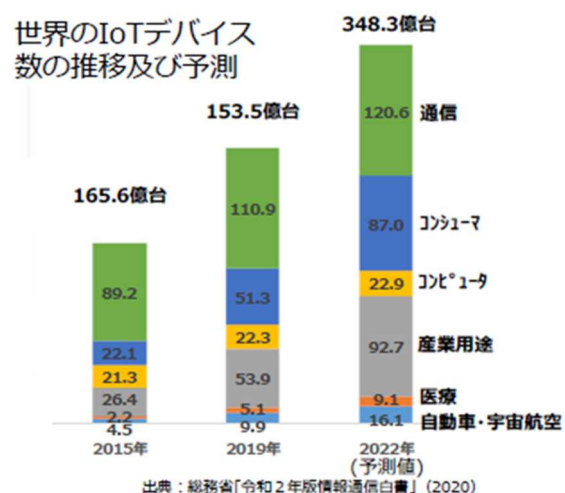
(1) 未来のテクノロジー

ICT^{※1}の目覚ましい進歩により、自動運転の普及やドローンでの移動、AIやロボット技術の応用などにみられるように、未来のテクノロジーが社会や暮らしのあり方を大きく変化させています。

(2) データの最大活用

IoT^{※2}が幅広い分野に拡大し、あらゆるモノがネットでつながる社会になっています。

今後もデジタル技術は更なる進化を続け、現実空間と仮想空間が高度に融合したシステムが整備され、社会課題の解決や一人ひとりに適したサービスの提供が実現されます。



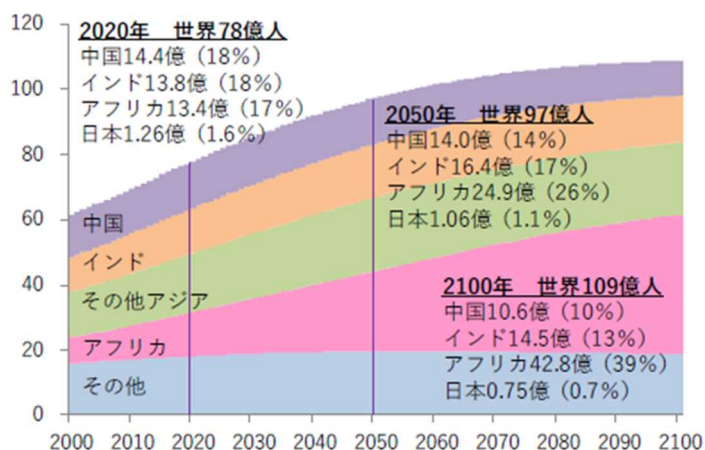
※1 ICT: 「Information and Communication Technology」の略で通信技術を活用したコミュニケーションのこと。(活用例) オンライン授業、テレワーク、遠隔診療

※2 IoT: 「Internet of Things」の略であらゆるモノがインターネットに繋がること。(活用例) 家電製品の遠隔操作、自動運転

4 世界の成長と一体化

(1) 大きくなる世界

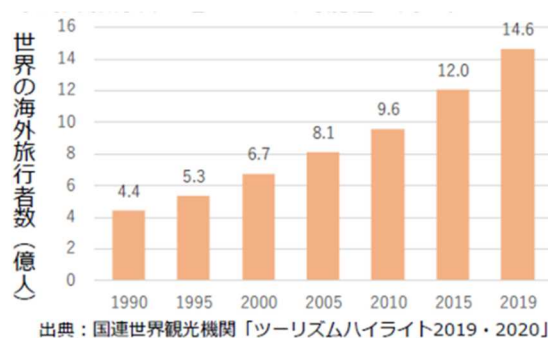
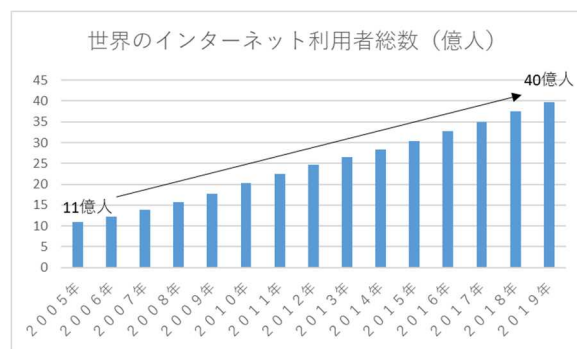
世界では、アジアやアフリカを中心に人口も経済もまだまだ成長が見込まれる国々があります。今後、活躍の場は世界中に広がり、ますます世界との結びつきを深めていくことが求められる時代となります。



(2) 一つになる世界

インターネットで世界が一つに結ばれ、情報の流通が勢いを増しています。スマートフォン等により世界中の人々がインターネットで結ばれる時代になっています。

そのような中だからこそ、リアル（本物）を求めて人の移動がより一層活発になる可能性があります。



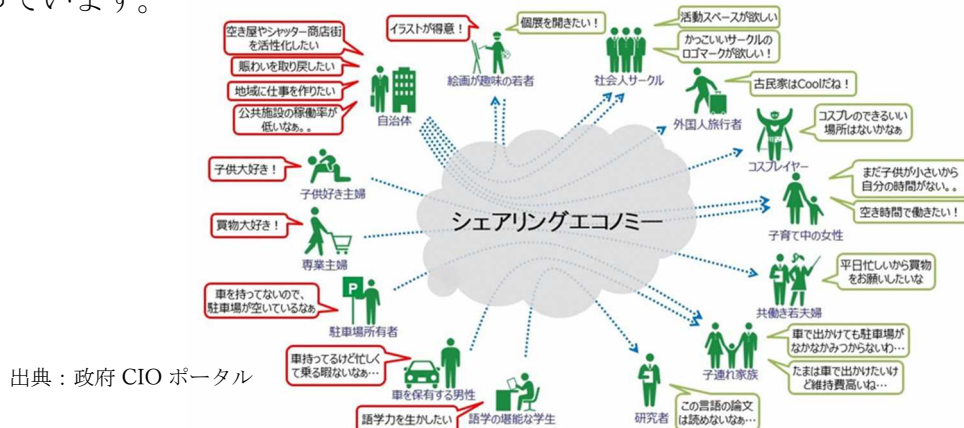
5 経済構造の変容

(1) デジタル化の進展

経済のデジタル化が進み、企業のビジネスモデルに大きな変化をもたらしています。ICTの発展によりあらゆる情報がデジタル化され、時間・場所・規模の制約を超えて様々な経済活動が可能となります。

(2) 新たな経済のかたち

資本主義による格差の拡大が顕在化する中で、社会への貢献を使命とする「公益資本主義」や、個人がインターネットを介して物や空間など様々なサービスを共有する「共有型経済（シェアリングエコノミー）」など新たな経済のかたちに向けた動きが広がっています。



6 価値観・行動の変化

(1) 価値観の多様性

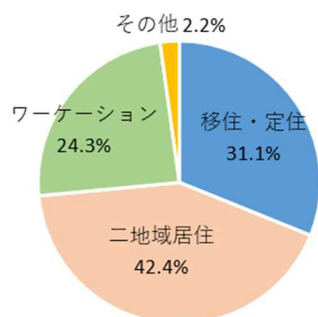
持続可能でよりよい世界を目指す目標である「SDGs」が世界の共通言語となったように、持続可能性の重視、多様性の尊重など新たな価値観やライフスタイルが広がりを見せています。

(2) 固定から流動へ

テレワークの浸透などにより、住む場所や働く場所の制約が消えつつあります。都市と地方を往来する二地域居住はコロナ禍によってさらに人気のスタイルとなって広がりをみせています。

また、一つの場所に住むという概念が崩れワーケーション※1やノマドワーク※2などの移動しながら働くスタイルも広がっています。

望む地方暮らしのスタイル



出典：「地方暮らしに関するアンケート」 (株) トラストバンク
(対象：地方暮らしに関心のある東京都内の20代以上の男女)

※1 ワーケーション：「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語。観光地やリゾート地で働きながら休暇を取る過ごし方のこと。

※2 ノマドワーク：ノートパソコンや携帯端末等を用いて、オフィス以外の場所で働くこと。

第3章 淡路地域の現状と課題

1 社会の現状と課題

(1) 人口減少・少子高齢化

淡路地域の人口は、1947年の22万7千人をピークに減少に転じ、2021年10月にはピーク時の半数近くまで減少しており、2050年には7万人まで減少すると推計されています。一方で、高齢者人口（65歳以上）が占める割合は増加し続け、2050年には人口の半数の49.7%を高齢者が占めると推計されています。

淡路島の人口推移

1947年 (226,890人)	※国勢調査
2021年 (126,242人)	※兵庫県推計人口 (R3.10.1時点)
2050年 (70,016人)	※兵庫県将来推計人口

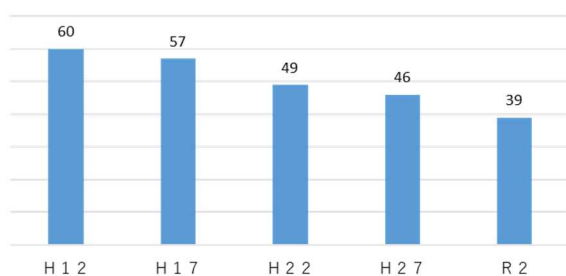
(2) 若者の流出と減少

淡路地域では、少子化に伴って学校の統廃合や、学校行事やクラブ活動などの規模が縮小しています。

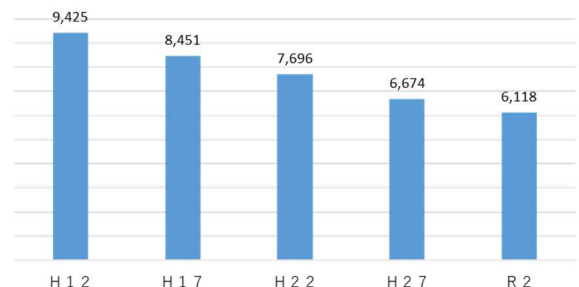
近年は、公立高校の学区拡大により、教育内容やクラブ活動のニーズに応じた進学先の選択肢が広がったこともあり、島内の中学校卒業者のうち2割を超える生徒が島外の高校へ進学しています。

また、島内には、大学や専門学校などの進学先が限られており、高校卒業後に島外へ進学する若者が多く、卒業後に淡路島へ戻ってくる若者の割合が近年減少傾向にあります。

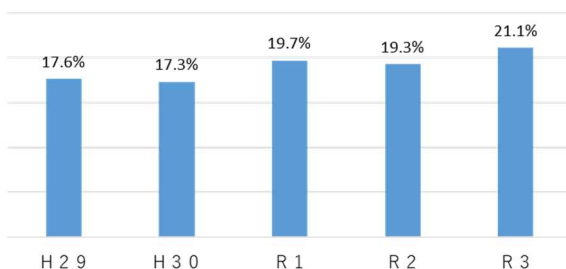
島内小学校数



小学校児童数 (人)

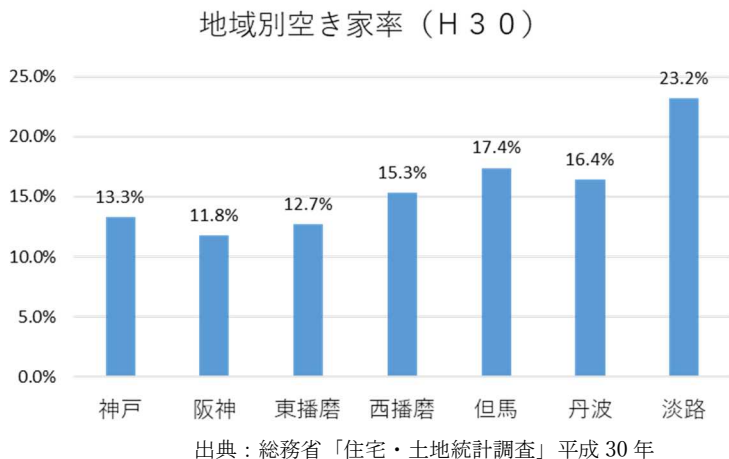


中学卒業者の島外進学率の推移



(3) 空き家の増加

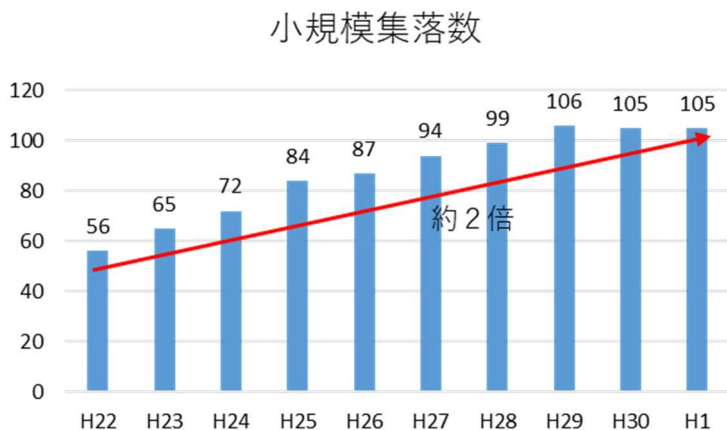
人口減少や核家族化を背景に空き家が増加しています。活用されずに放置されている空き家は、防災上、衛生上、景観上の悪影響を及ぼします。地域の交流拠点や移住促進等に有効活用する仕組みを構築する必要があります。



(4) コミュニティの縮小

人口減少と高齢化によって地域活動の担い手が不足し、コミュニティが縮小しています。子ども会や町内会などの行事も出来なくなりつつあり、人のつながりが希薄になっています。

加えて、人口の流出も伴って、島内の小規模集落の数も増加し続けています。



※小規模集落：世帯数50戸以下かつ高齢化率（65歳以上比率）40%以上

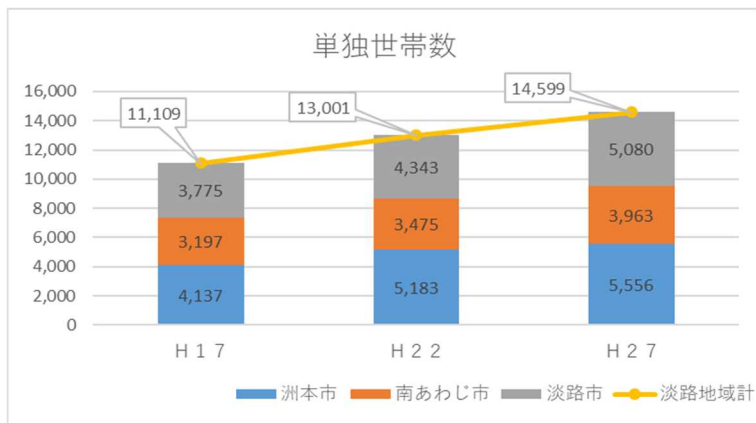
(5) 伝統芸能・文化の後継者不足

少子化や若者の島外流出によって、約500年の歴史を誇る淡路人形浄瑠璃をはじめとする伝統芸能や文化の後継者不足が課題となっています。また、地域の祭りなども規模が縮小するなど伝統文化の継承が難しくなっています。

(6) 孤立者の増加

人口減少に伴って地域や人とのつながりが希薄になったり、単独世帯が増加したりすることで、社会から孤立してしまう人が増加する恐れがあります。

また、社会のデジタル化の進展によって多くの人の暮らしが便利になる一方で、情報社会から取り残される人が増加する恐れもあります。



(7) 再生可能エネルギー発電設備の老朽化

今後、脱炭素社会に向けてさらに再生可能エネルギー発電設備が増加することが予想されます。30年後は様々な再生可能エネルギー発電設備が老朽化（耐用年数経過後）し、設備の更新・撤去が課題となっていることが想定されます。

(8) 淡路島の交通

ア 住民向け地域交通の充実

人口減少や高齢化による集落の点在化に加え、ラストワンマイル^{※1}の移動が大きな問題となってきており、路線バスやコミュニティバスなど従来型の公共交通だけでは対応が困難になっています。

今後は、従来の公共交通に加え、地域モビリティなど多様な交通形態を組み合わせることで、利用者ニーズにきめ細かく対応し、誰もが快適に移動できるまちを目指すことが重要です。



パーソナルモビリティ



超小型モビリティ



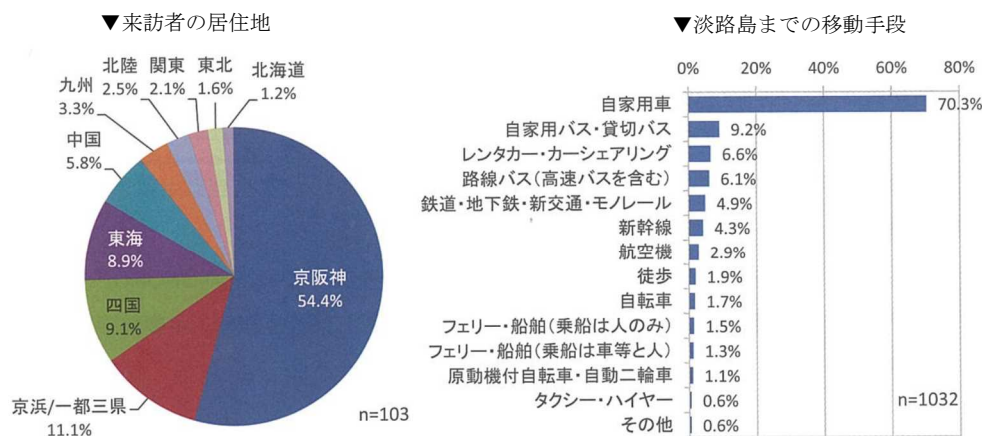
多目的モビリティ

※1 ラストワンマイル：最寄りの停留所などから最終的な目的地までの道のりのこと。

イ 観光客向けの移動手段の確保

淡路島の観光客は、日帰り客が増加する一方で、宿泊客はほぼ横這いで推移しており、関西圏などの近場から自家用車を利用しての来訪が大半を占めています。

今後、遠方からの観光客が公共交通を利用して島内の観光地を周遊できる公共交通網を構築する必要があります。



出典：国土交通省「高速バスの利用促進に向けた調査」(2016年度)

(9) 福祉の充実

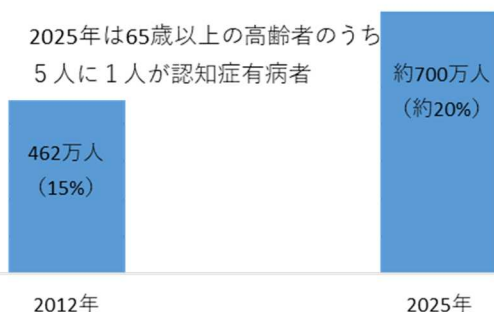
淡路島には元気な高齢者がたくさんいます。今後、医療技術の発達や更なる健康志向の高まりなどにより人生100年時代が到来し、元気な高齢者がますます増加することが予想される一方で、認知症リスクの増大や高齢者を支える側の人が不足するという課題も予想されます。

今後、ICTやロボットなどの先端技術も取り入れながら、誰もが最期まで生きがいを持って暮らせるように、活躍できる場の充実や地域で支え合う仕組みの構築などが必要となります。



移動介助アシスト

認知症高齢者(65歳以上)の将来推計



「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成26年度厚生労働省科学研究費補助金特別研究事業 九州大学 二宮教授)より作成

2 経済の現状と課題

(1) 地域産業

ア 地場産業

淡路島の地場産業には、生産高日本一を誇る線香や江戸時代から受け継がれてきた淡路瓦、淡路手延べ素麺などがあります。

人口減少や少子高齢化、生活の多様化などを背景に、地場産業を取り巻く環境は厳しさを増していますが、近年は新商品の開発や海外への販路開拓などの取組みが展開されています。



スターバックス淡路S A店の壁材



新ブランド「Awaji Encens」



淡路島ぬーどる

イ 農畜水産業

私たちの生活を支えてきた農畜水産業は、人口減少と高齢化に伴って後継者・労働力不足が深刻になっています。

一方で、未利用地を活用した新たな農業参入の取組みなども展開されています。今後も更なる生産基盤の強化や、技術革新の導入、誰もが気軽にチャレンジできる環境整備など、産業の活性化に向けた取組みが必要です。



出典：北淡路土地改良区HPより作成

(2) 就労機会の不足

淡路地域の有効求人倍率は、県内の他地域と比べて高い倍率で推移しています。しかしながら、求人数のうち「医療・福祉」「飲食サービス・宿泊業」の2分野で全体求人数の3割以上を占めています。働き方や暮らし方の変化、求職者のニーズに対応した就労機会や雇用形態の確保が必要です。

有効求人倍率の推移

(令和3年7月現在)

区分	令和2年度	令和3年度			
	年平均	4月	5月	6月	7月
淡路	1.55	1.47	1.55	1.69	1.78
全県	0.97	0.93	0.94	0.97	0.97

(3) 情報通信環境の高度化

社会のデジタル化が進む中で、望む誰もがITの利便性を享受でき、多様な働き方やライフスタイルの選択肢が広がるように情報通信環境の整備は不可欠です。

(4) エネルギーの有効活用

島内のメガソーラーの多くは、外部企業が地域外に送電するものであり、地域に還元される利益は大きくありません。豊富なエネルギー資源を有しながら、発電される再生可能エネルギーの地産地消が効率的に実現できていないことは、地域で自立した循環型社会の構築にとって大きな課題です。

3 環境の課題と現状

(1) 自然災害への対応

近年の想定を超えた異常気象や今後30年以内に高確率で発生すると予測されている南海トラフ地震や未知のウイルス感染症など、私たちの生活は様々な自然災害の危機と隣り合わせにあります。

ハード整備はもちろんのこと、災害発生時に地域や家族など小さな単位で危機に対応する力をつける必要があります。

1時間降水量80mm以上の年間発生回数（出典：気象庁）
 1976年～1985年（10年間）⇒平均14回/年
 2011年～2020年（10年間）⇒平均26回/年

南海トラフ地震の発生可能性の評価（国の地震調査研究推進本部の評価結果（令和2年1月）より）

地震区分 (次の地震規模)	地震発生確率			直近の 発生時期 a	次の地震までの 間隔*1 b	次の地震までの 残年数*2 c=b-a
	10年 以内	30年 以内	50年 以内			
南海トラフ M8～M9	30%程度	70～80% 程度	90%程度 もしくは それ以上	74.0年前	88.2年前	14.2年後

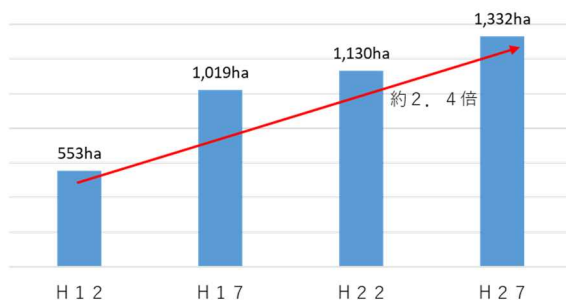
*1 時間予測モデルから推定された次の地震までの発生間隔
 *2 地震調査研究推進本部が算定したa,bの年数を基に、本県で試算

(2) 山林、農地の荒廃

生活様式の変化や石炭・薪炭から石油・ガスへの燃料革命によって里山林が放置され、森林の荒廃が進んでいます。また、過疎・高齢化に伴う耕作放棄地の増加によって農地の荒廃も進んでいます。

淡路島の生物多様性を支える森林および農地生態系^{※1}の荒廃は、様々な生態系サービス^{※2}の劣化に繋がるのが懸念されます。

耕作放棄地面積の推移



出典：農林水産省「農林業センサス」

※1 農地生態系：農地およびその周辺の草地や陸水の環境と、そこに生息・生育する動植物等からなる生態系

※2 生態系サービス：様々な生物から人間が受ける利益、恩恵

(3) 放置竹林の増加

放置竹林の拡大により、保水能力・土砂崩壊防止機能の低下、生物多様性の低下、里山環境・景観の悪化、獣害被害の拡大など大きな問題となっています。

島内の竹林面積（出典：日本森林技術協会）

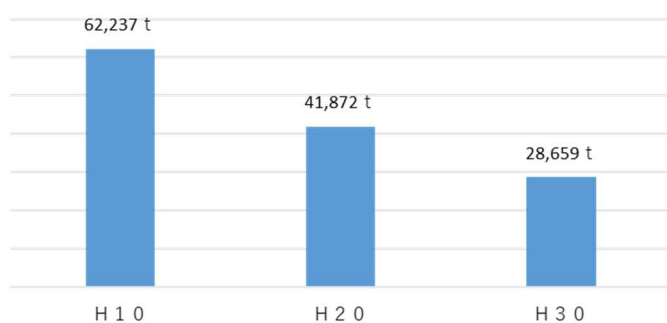
市名	竹林面積	県内順位	市面積に占める竹林面積割合	県内順位
洲本市	1,032.22ha	3位	5.65%	2位
南あわじ市	258.39ha	13位	1.13%	22位
淡路市	1,369.47ha	2位	7.42%	1位
淡路島全体	2,660.08ha		4.50%	

(4) 海の水質環境

排水処理技術の向上や下水道の普及等により海が綺麗になりすぎたことで、海の栄養分が減少し、その結果、海藻や魚が育ちにくく、漁獲量も減少しています。

陸と海のバランスのとれた栄養循環など、豊かな海の再生に向けた取り組みが必要です。

瀬戸内海区における海面漁業漁獲量



出典：農林水産省「漁業生産額」

(5) 淡路島らしい景観や風景の喪失

周囲を海に囲まれていることから発生する漂着ゴミや、観光客の増加に伴う観光ゴミ、また、空き家や耕作放棄地の増加は淡路島らしい景観や風景を悪化させています。

淡路島の自然、文化、歴史的背景を踏まえたまちづくりや景観保全に取り組む必要があります。

瀬戸内海沿岸における海岸漂着物回収実績

沿岸	大阪湾沿岸	播磨沿岸	淡路沿岸	合計
平成26年度回収量 (t)	303.3	66.5	365.4	735.2
平成27年度回収量 (t)	266.9	63.2	218.1	548.2
平成28年度回収量 (t)	88.2	37.9	116.6	242.7
平成29年度回収量 (t)	67.3	94.6	253.3	415.2
平成30年度回収量 (t)	113.9	247.3	374.6	735.8

(出典：兵庫県瀬戸内海沿岸海岸漂着物・漂流ごみ等対策推進地域計画)

(6) 社会インフラの維持管理

今後、上水道や道路、橋梁などの社会インフラが次々と寿命を迎えます。ICTなどの新技術の活用に加え、更なる選択と集中により、社会インフラの維持管理に取り組む必要があります。

淡路島は、兵庫五国（神戸、阪神、但馬、播磨、淡路）の中で唯一「島」という独自性を持っています。また、古くから文化、軍事、交通などにおいて重要な役割を担い、政治の中心が江戸に移るまで、淡路島はその存在が国中から注目される島でした。実際に、古代日本の地図を広げてみると、淡路島の位置がちょうど国の中央にあることが一目瞭然です。

近代の日本は、東京一極集中の時代が長らく続いていましたが、新型コロナウイルス感染症の広がりを契機に、働き方や生活様式が大きく変わり、地方分散の動きへと転換しようとしています。

今後、地方がより注目され、その役割は大きくなりつつあります。恵まれた条件が揃っている淡路島こそ、他に先駆けてこの国のモデルとなる役割を果たすことができるのではないのでしょうか。

（1）立地と交通

現在の淡路島は、明石海峡大橋と大鳴門橋という2つの橋で本州、四国と結ばれ、四国へは約30分、関西大都市圏まで約60分という恵まれた立地環境にあります。

歴史を見ると、古代から播磨、讃岐、和泉、摂津、阿波へ海を共有して生活していたことや、穏やかな海に囲まれていることから海上交通を基盤とした遠距離交流の中継拠点であったと考えられています。そのため、水稻耕作や青銅文化などの弥生文化が北九州からいち早く淡路島に伝わりました。

未来の淡路島が発展するためには古くから栄えた海上交通の重要性を見直すことも必要なのではないのでしょうか。

さらには、近年の技術革新によりドローンなどの空飛ぶ技術も発達し、空中を自由に移動できる時代もそう遠い未来ではありません。

20世紀の石油文明が終焉を迎えようとする今、陸路に加えて、海上や上空が物流等の主流となる可能性もあります。そうなれば、立地環境に恵まれた淡路島が、陸・海・空のあらゆる空間を活用した交通のメインストリートに位置する時が来るのではないのでしょうか。

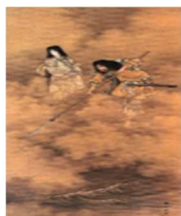


(2) 歴史と伝統文化

淡路島は、『古事記』や『日本書紀』において、日本で最初に生まれた“はじまりの島”とされ、他の地域には決して見いだせない歴史を持っており、その歴史ストーリーは日本遺産にも認定されています。

また、約500年の歴史を持つ淡路人形浄瑠璃を代表とする芸能や神事、年中を通して島のどこかで行われている祭りは、地域とそこに暮らす人々の誇りです。地域の心の豊かさは、歴史と文化の遺産の上に築き上げられることによって、より一層の深みと彩りが増します。

このような歴史ある伝統文化を守り、新たなカタチや価値観を創出しながら次の世代へと継承していくことで、これから先も淡路島に住む人や訪れる人の心に豊かさをもたらし、地域が活性化していくのではないのでしょうか。



(3) 自然の恵み

淡路島は、どこにいても周囲を見渡せば山・川・海を見ることができます。万葉集や百人一首などの和歌集にも、淡路島の海や景観など自然を詠った和歌が数多くあることから、昔から人々を魅了してきたことがうかがえます。

また、温暖な気候と豊かな自然があふれる淡路島は、多種多様な動植物の生息地にもなっており、中には、県下で淡路島だけに生息しているものも数多くあります。

さらに、近年では、その豊かな自然環境が織りなす美しい景観や美味しい食などをテーマとした観光地化が進み、島外から多くの観光客が訪れています。

食や自然などの観光資源にさらに磨きをかけ、都会では味わうことのできない魅力を創出することで、「観光の島」として世界中から注目される地域になるのではないのでしょうか。



(4) 食とエネルギー

淡路島は、古来より“山の幸、海の幸、野の幸”に恵まれ、天皇や朝廷に豊かな食材を貢進する「御食国」と呼ばれていました。

水に関しても、とても良質な水があり、仁徳天皇の時代には、毎朝夕に天皇家まで届けていたといわれています。

こうした食の豊かさは、現代に至るまでずっと継承されています。温暖な気候に恵まれ、三毛作など農業技術も大変優れており、淡路島の食料自給率^{*}はカロリーベースで110%、生産額ベースでは389%を誇っています。(※平成24年度実績)

玉ねぎ、レタス、淡路ビーフはもとより、近年は、「淡路島3年トラフグ」、「淡路島サクラマス」、「淡路島えびす鯛」「淡路島なるとオレンジ」など、新たな淡路ブランドを生み出しながら、昔と変わることなく人々に豊かな食を提供し続けています。

また、エネルギーにおいても温暖な気候と豊かな生物多様性に恵まれている淡路島は、様々な自然エネルギー自給自足の可能性を持っています。

今、世界中でエネルギー枯渇や温暖化が危惧される中で、カーボンニュートラルを目指す動きが加速しています。

“はじまりの島”淡路島が、世界をリードする“未来の島”となる可能性を十分に持っています。



(5) 人柄

淡路島は温厚で優しい気性の人が多く、人と人とのつながりが濃密な地域です。ご近所さんから野菜や魚をもらったり、余り物をあげたりと「おすそわけの文化」が根強く残っています。

また、淡路弁を使って気さくに会話をするのも淡路島の人の特徴で、「淡路島には敬語がない」と言われるくらいです。良い意味で、人と人が親密な関係を築いているということでもあります。

方言は、その土地の歴史やそこに暮らす人々の喜びや悲しみなどが詰まったふるさとの文化遺産であり、大切にしなければなりません。淡路弁の中には、きつuitと感じる表現もありますが、一方で便利な表現や親しみやすい表現もあります。方言を上手に活用すれば、淡路島を訪れる人や移住者に対しても親しみを持って接したり、理解し合ったりするコミュニケーションツールにもなるでしょう。



第5章 淡路島がめざすビジョン

(1) 基本理念

(仮) 人と自然の“環”が広がる淡路島

～食いっぱぐれのない豊かな環境の島へ～

淡路島は、「国生みの島」「御食国」と呼ばれてきた歴史的ストーリーや、都市近郊の「島」という立地特性など、多くの資源・魅力に恵まれています。

淡路島の人々の暮らしとそれを支えてきた自然には、切っても切れない強い繋がりが 있습니다。これまでの淡路地域ビジョンで掲げてきた“環境立島”の理念を継承し、人と自然の良質な関係を築くとともに、多様な資源・魅力を活かして、誰もが安心して暮らし続けられる（＝食いっぱぐれのない）豊かな環境の島を目指します。

(2) 目標

淡路島のビジョンを実現するために、豊かな自然環境、美しい景観、豊富な食、農漁業など産業の営みの豊かさ、伝統文化、さらには人と人との濃密なつながりなど、個性豊かな資源を守り・育み・強みを活かした淡路島らしい島づくりを目指して5つの目標を掲げます。

- 目標1) 持続可能な暮らしと環境の島
- 目標2) 食とエネルギーを生み出す島
- 目標3) 危機や災害から生き残る島
- 目標4) 観光客や移住者をあたたかく迎える島
- 目標5) 全ての人誇りを持てる島

目標1 持続可能な暮らしと環境の島

淡路島の豊かな自然環境や歴史ある伝統文化を守り、育み、次世代に引継ぎます。

また、人口が減少しても、人々のつながりが希薄にならず、地域が活力にあふれ、全ての人がいきいきと暮らせる島を目指します。

さらに、次世代の技術をうまく取り入れ、快適さと環境が両立し、『誰もが暮らしやすい』と感じる島を目指します。

地域の将来像

- ・ 自然環境への配慮と地域資源を活用した脱炭素社会が実現している。それによって、企業立地の魅力も高まり多くの企業が豊かな環境と多様な働き方を求めて淡路島に拠点を移し、島内の経済が活発化している。
- ・ 自動運転技術の普及と、島という立地環境を活かした陸・海・空のあらゆる空間において多様なモビリティ（移動手段）が活用されている。誰もが移動に制限されることのない、便利な田舎暮らしが実現している。
- ・ 情報インフラが整備され立地環境を活かした企業誘致が展開している。地域産業の活性化と島内の安定した雇用環境が整い、島外に進学した若者が淡路島に戻ってきやすい環境が整っている。
- ・ 都市近郊の自然に恵まれた立地環境を活かし、働いてよし・住んでよし・遊んでよしの「職・住・遊」がまるごと楽しめることができ、ワーケーションやリモートワークの適地として選ばれている。
- ・ 伝統文化や祭りなどが日々の暮らしの中で様々な付加価値を加えながら脈々と受け継がれている。地域と人々がつながりを持ち続けることで、その地域に住み続けたいと思える人が増えている。



目標2 食とエネルギーを生み出す島

「御食国・淡路島」の人々を支えてきた農畜水産業が淡路島の基幹産業として発展し続け、食の魅力を高め、世界に誇れる「食の島」を目指します。

また、温暖な気候で日照量が多く、周囲を海に囲まれた立地環境など、再生可能エネルギーの創出に適した環境を活かし、再生可能エネルギーが持続的に循環する島を実現し、食もエネルギーも『自給自足率N o 1』の島を目指します。

地域の将来像

- ・農業に専門的に従事する人と「援農」や「半農半X」^{※1}、「雇用就農」など多様な形で農業に関わる人が増加し、ともに地域の農業を支えている。農産物は淡路ブランドとして付加価値を生み出し国内外に流通している。
- ・豊かで美しい海の再生と漁場環境の整備、養殖技術や栽培技術の向上などにより国内外に誇れる淡路島のおいしい魚が安定して供給されている。
- ・ICT・ロボット技術等を活用した第一次産業のスマート化の導入により、生産性や収益性の向上、新たな担い手の確保、さらには技術の継承など、産業が発展している。また、ドローンなどを活用した輸送技術によって、淡路島の新鮮な食材が各地に届けられている。
- ・地域や家庭において、自然や景観に配慮した再生可能エネルギーの創出が進み、誰もが「エネルギーの生産者」となっている。エネルギー自給率100%を達成し、島内でエネルギーが循環している。
- ・食の地産地消は、人々の健康と淡路島の食文化を支えている。また、生産者と消費者の信頼関係が築かれ資源や環境が大切にされている。



※1 半農半X：半分は農業、半分は自分のやりたいこと（=X）を両立させる生き方。

目標3 危機や災害から生き残る島

これまで淡路島が経験してきた多くの風水害や地震の教訓を活かして、災害が発生しても個々の備え（自助）や人々と地域の絆（共助）を活かして、全ての人が災害から生き残る島づくりを目指します。

また、ハード整備に加えて、あらゆる自然環境との連携による防災・減災や住民の防災意識の向上など『地域防災力N o 1』の災害に強い島づくりを目指します。

地域の将来像

- ・過去の災害の経験を活かした防災対策や地域防災教育が浸透し、自分たちで何とかしようという防災意識が高まっている。また、防災情報環境なども充実し、地域単位でさまざまな危機の発生に備えられている。
- ・淡路地域の特性である「人と人」、「人と自然」の濃密なつながりが活かされ、災害が起こっても隣保の絆やコミュニティの共助によって助け合える防災ネットワークが構築している。
- ・豊かに再生された森・里・海の自然環境が防災減災に活かされている。グリーンインフラ^{※1}の活用や流域治水などによる防災・減災の推進により、誰もが安心して暮らしている。
- ・いかなる災害が発生しても、食とエネルギーの自給自足、日本一の数を誇るため池の多面的機能などの活用によって島が孤立することなく災害に適応できる環境が整っている。



※1 グリーンインフラ：自然環境が有する機能を社会における課題解決に活用しようとする考え方。

目標4 観光客や移住者をあたたかく迎える島

淡路地域が持っている独自の資源を最大限に活用し、世界中から選ばれる観光の島を目指します。

また、様々なつながりを大切にして、移住しやすい環境やいろんなことにチャレンジできる環境をつくり、誰もが『訪れたい、暮らしたい』と思える島を目指します。

地域の将来像

- ・山と海に囲まれた豊かな自然、美しい海岸線や淡路らしい田園風景、四季折々に楽しめる美味しい食など、淡路島独自のポテンシャルを活かした観光が展開されている。自然の豊かさとリゾートが融合した観光地として国内外から選ばれる魅力的な地域になっている。
- ・「国生み神話」、「御食国」などの歴史的ストーリーや淡路人形浄瑠璃、だんじり唄などの伝統芸能が観光や人々の交流に活かされている。地域の祭りや伝統文化に活気があふれ、地元住民と観光客のつながりや交流が活発になる。
- ・海上交通の発展や2次交通の充実・多様化により、国内外から訪れやすいリゾート地として多くの人々が訪れている。
- ・一人ひとりの価値観や多様性が理解され、昔から地域に根付く「おすそわけの文化」が地域住民と移住者の良質な関係を築いている。
- ・移住促進や地域また、観光の交流拠点として空き家の活用が進み、田舎らしい街並みの景観が守られている。古民家リユース率は100%を達成し、移住体験も充実しており持続人口^{※1}が増加している。

※1 持続人口：交流人口（観光客入込数・二地域居住者・通勤通学者の合計）と定住人口（その地域に住んでいる人々）の合計。

目標5 全ての人誇りを抱える島

個人の価値観が尊重され、全ての人に役割や居場所があり、誰もが住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせる島を目指します。

また、学校や地域、家庭が一体となった教育や子育てを推進し、将来の淡路島を担う人材を育てます。

そして、誰もがふるさと淡路島に誇りを抱える『幸福度100%』の島を目指します。

地域の将来像

- ・健康志向の高まりと医療技術の発展等によって「人生100年時代」が到来している。第二、第三のライフステージの活躍の場が広がり、生涯現役で活躍する高齢者が増加している。
- ・障害者や認知症高齢者、社会への適応が難しい人など社会的弱者など全ての人理解され、共に支え合っている。誰もが住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしている。
- ・地域資源を活かした独自の教育や働くことを通じた学びの場など教育の場が広がっている。一人ひとりの価値観が大切にされ個人の選択が尊重される優しい社会が構築されている。
- ・家庭や地域、関係機関が一体となって子供の成長や学びを支えている。多様性を認め合い自分らしい生き方が選択できる地域社会が実現している。
- ・環境教育や体験活動を通じた学びの場が広がっている。子供も大人も島の豊かさを知り、地域を誇りに思い、魅力を発信できる人が育っている。



第7章 目標の実現に向けた役割

ビジョンを実現するためには、個人・団体・企業・行政それぞれが役割を持ちながら、参画と協働により一体となってまちづくりに取り組むことが重要です。

【住民・地域の役割】

- 住民自らが地域づくりの担い手として、ビジョンの実現に向けた取組みの推進
- 淡路島をより良い地域にし、次世代へつないでいくために、日頃から身近に取り組めることを実践

〈身近な取組みの例〉

- 地域行事や祭りなどに積極的に参加する
- 伝統芸能や淡路の歴史を学ぶ、伝える
- 自然や地域資源を大切にする
- ゴミを出さない生活をする
- 森、里、海 of 自然環境の価値をよく知り、価値を損なわない使い方をする
- エネルギーの消費を抑え、自然の豊かさが持続する暮らしを心がける
- 節水、節電を心がける
- 趣味を楽しむ
- 暮らしに自然エネルギーを取り入れる
- 地産地消を心がける
- 近所の人との関わりを持つ
- 家具の転倒防止や防災グッズを備える
- まちの清掃・防災活動に参加する
- 移住者と地域とのつなぎ役になる
- いじめや差別をしない、させない
- 困っている人を見かけたら助ける
- 他者を尊重する
- 世代を超えて集える場づくり
- 多世代間の交流を積極的に行う
- 地域で子供や高齢者の見守りをする
- 地元商店を活用する
- 地域の中で高齢者を支える人材を育てる
- 学校行事へ積極的に参加する
- 栄養バランスを考えた健康的な食事をする
- 徒歩や自転車での移動を心がける
- 自然の中で遊ぶ
- SNSで地域の魅力を発信する

【地域団体・企業の役割】

- 専門知識やノウハウを活用し、様々な住民を巻き込んだ活動の展開
- 住民同士をつなぐネットワークを構築し、自治組織の支援や住民主体となる活動をコーディネート
- 行政の政策づくりに積極的に参画し、協働によるまちづくりを推進
- 企業の持つ特色やノウハウを活かした地域づくりへの貢献
- 地域づくりに参加しやすい社内環境の整備

【行政の役割】

- 道路や河川の整備など社会基盤の整備
- 地域を担う人材の育成
- 市民活動の支援、情報の提供、住民の行政への参加機会の提供など、住民主導の地域づくりのサポート役としての支援
- 多様な住民ニーズに対応した行政サービスの提供